

11月22日は いい夫婦の日

近所にお住まいの、
支えあい助け合っている、仲がいい
チョット素敵なお夫婦取材しました。



いい夫婦の日がはじまったのは1988年。夫婦で余暇を楽しむライフスタイルを提唱した際に、あわせて「いい夫婦の日」が制定されて今年で21年目。だいぶ世間には認知されてきたようです。

もっとも身近な人との関係が素敵であればまちももっと明るく感じるはず。

今回、それぞれの生活スタイルの中から夫婦で力を合わせて生活を送られている4組の夫婦から貴重なお話を伺いました。

1 70歳台 生涯現役で！目標は三浦敬三さん

高橋昭三さん・佳代子さん(みどり野)



室蘭から当別に移住したのは平成元年、その前年に40年務めた国鉄を退職し、夫婦2人でスキーなどをしながらのんびり暮らしたいと札幌近郊を見て周り、石狩平原スキー場に近いみどり野が理想にぴったりですぐ購入しました。妻も若い頃、陸上をやっていました

し10人兄弟の長女ということもあってか、私のやることにはいやな顔をせず、全て付いてきてくれました。

国鉄時代から八甲田山でスキーを楽しみ、そこで100歳まで現役のスキーヤーだった三浦敬三さんにお会いし、その魅力に取り付かれてからは退職後に一番にやりたいことがスキーになった訳です。1級を取ったのは15年ほど前、妻も2級を取りました。スキーに通うことで冬も風邪をひくことなく、アイスバーンに足を滑らせて転ぶこともないですね。

オフシーズンのときは卓球です。卓球少年団のお手伝いもさせてもらいながらも先日町内大会にも出場しました。

釣りも二人で行きます。小樽や礼文までも通い、大物も釣っていました。これらをずっと2人でやってこれたのは、結局、趣味が同じなんだろうね。気まずいことがあったとしても、一緒に出かけ、帰ってきた時にはもう会話も弾んでいます。でも一番大切なことは周りの方々に支えられているということを実感することですね。当別に来て冬はスキー、夏は卓球や釣りができるのも、全て仲間や教えてくださる方がいるからだと思います。そういう人材が豊富な当別に来て本当に良かったと思いますね。

2 7月に結婚、今の夢は・・・

小学校と中学校では同級生、その後、私が野球、妻がソフトボールをしていた関係で昨年再会し、1年の交際の後にプロポーズしました。私が本通り商店街で商売をしていること、2人とも当別町に縁があり、友人も多いこと、何より2人とも当別を愛していることから地元で式を挙げることにしました。当別神社は、祭りで御輿を担いだりとても思い出のある場所です。

7月 5日の式当日は、天気もよく当別神社で気持ちよく式を挙げることができましたね。披露宴も地元の田西会館で、余興には当別アンサンブルファミリーや当別太鼓に登場してもらったり、引き出物に自分の店で精米した自慢のお米を使ったりとアットホームな感じでとても良かったです。

参加いただいた方からもとても良い式だったと伺い、地元での挙式が良かったと思えました。子どもが生まれれば、もっともっと張り切るでしょうね。これからは地元商店の後継者として、商店街の方や地域の方と協力しながら商店街を盛り上げるよう、しっかり働いていきたいと思えます。子どもは9人位いたらいいですね。



瀬戸郁裕さん・綾乃さん(園生)

3 奥さんの病気を機に、夫婦でリハビリ

昨年 100日あまりガンで入院しました。その時とっさに思ったことは「91歳のおばあちゃんの世話をどうしよう。」でした。見合いで初めて来た時、乳牛を見て怖くなり、この縁談はお断りしようと思っていたんですが、牛の世話はしなくていいという条件で、43年前

に新篠津から嫁ぎました。ところが主人が留守の時に牛は脱走するんですね。餌を持って一人で牛を追いかけ牛舎に何とか入れました。今では5反程ですが花栽培をやっており、本州方面に出荷しています。そんな農業の苦勞をしてきて今は施設に入所している姑の世話をしやれないことが本当に心残りに感じてます。

昨年6月にガンが見つかり、先生から入院を告げられた日はちょうど大好きな氷川きよしのコンサートの日で、娘がせっかく用意してくれたチケットなので先生に無理を言って入院を一日延ばしてもらい、コンサートに行きました。楽しみましたね。

翌日入院してみて多くの若い方も病気と闘っている姿を見て、自分は幸せと思うようになりました。退院した後、弱っていた私に、主人は一緒に歩こうと誘ってくれ、総合体育館で毎日4kmを歩くことになりました。

おかげで今ではすっかり元気になり、病気が夫婦の絆を教えてくれたようにさえ思います。病気には気持ちを前向きに持つことですね。

円満の秘訣は亭主関白ですかね？私も実はいろいろなことを主人にしてもらっています。うちの主人は働き者なんです。本当に感謝しています。これからもお互いの体に気を使いながらやっていくつもりです。



渡辺俊明さん・良子さん(獅子内)

4 退職後の農業は2人で

《ご主人》

若い頃は農業をしていたのですが、縁があってサラリーマンを23年間勤め、退職後にフレンドリーファームとして再び農業を始めました。サラリーマンの頃にも、週末はたくさんの近隣の農産物の直売を見て回ったものです。

特に長沼や南幌の方にもよく出かけて、直売や体験農園をしている農家を見ているうち、妻がこういう農業をしたいと言い出しました。それで始めたフレンドリーファームは、対面販売や体験型の農業を目指しています。今年で8年目を迎えたのですが、毎年、新しいことに挑戦しようと心がけ、蕎麦打ち、豆乳、豆腐作りなどにも取り組んできました。現在は、野菜を作るだけでなく、それをおいしく食べてもらうために、料理方法をお客さんに教えたりもしますが、お客さんからも色々な知識もらう事があり、3年、5年と長く付き合うお客さんが増えてきています。

円満の秘訣の秘訣は・・・

我慢 はほどほどに、合わせるときは合わせる、そして意見を出し合うことが大切だと思いました。妻から意見を言われることもありますが、今の仕事には女性の視点が必要なので、助言と思って聞くようにしています。

《奥さん》

実家が酪農で、たくさんの家族の中で育ったので、人が集まるのは慣れていますが、じっとしていることが嫌で、女性協や農協女性部にも参加して活動してきました。農作業



佐藤信廣さん・しげるさん(獅子内)

はイヤでしたが、3人の子どもをしっかりと育てなければと思い、主人がサラリーマンをしている間も一生懸命働きました。主人の退職後に一緒に農業をするようになってからは、地域の方とコミュニケーションでき、地域の動きも分る配食ボランティアのお仕事を勧めましたが、今ではお客さんの顔を見るのを楽しみに行っていますね。

「いい夫婦の日」に合わせ民間が行ったアンケート調査によると夫婦の会話の一日の平均時間は60分で、幸福度が高いと回答している夫婦ほど会話時間が長く、また、家事分担している夫婦の平均は32%ですが、こちらも幸福度が高い夫婦ほど家事分担している実態が分っています。

このような結果から「幸せな夫婦関係に必要なもの」は「思いやり」が圧倒的1位で以下「信頼」、「お金」が続くようです。

今回の取材はごく一部の町内のご夫婦でしたが、いずれも「おもいやり」、「信頼」を強く感じる事ができました。普段の会話の中で将来設計、生活目標を話し合い、それに向かって努力されている様子はぜひ、見習いたいものです。

素敵なお夫婦が、今日も活躍し、周りの方々、地域に力を分けてくれているような気がしました。

